

鳥海山

第15号

題字
顧問 佐藤 吉寛
発行
本荘地区保護司会
「鳥海山」編集委員会

西目町のハーブワールドより 西目区保護司 瀧保 卓雄
～瀧保卓雄の鳥海山（油絵）～



多様性雑考

会長 佐藤 道幸

新体制になりお陰様で一年経ちました。皆様のご協力に感謝致します。

昨年はコロナこそ落ち着きを見せってきたものの、クマ騒動の一年でした。取り残しの柿に寄って来ると聞き春先に思いきって枝払いをしました。市街地にまで出没するとは思ってもよらず、朝夕の外出時も恐る恐るでした。

尤も私の寺にも以前からタヌキ・アライグマ・ハクビシン・キツネ・カモシカまで出ていましたが、生物の多様性を身近に感じています。

昨年十二月に施行された改正保護法の地域援助が始まり四月より本格化します。立ち直りの意欲を持つて社会復帰を図ろうとする人達に地域ぐるみで支援していかうとするものです。

私達保護司が対象とする道を踏み外した人達も、以前は共に地域の隣人として普通に暮らしていた人達です。何らかの弾みや背景或いは事情により罪を犯したものの、悔い改めやり直そうと真剣に考えている時、社会が元の様に暮らす

事を許してくれない状況でも、誰かが支援の手を差し伸べてくれなければ、更生の意欲は挫けてしまいます。

昨今SDGsの浸透もあり「多様性を認めよう」との意識が高まってきました。動植物も人間も、ちよつと変わっていても差異を認める。多様性を認めるとは寛容になる事だと考えます。

犯罪歴があり、生きづらさを抱えながらも社会復帰を期す人に対し、赦さずとも認める機運が社会にも芽生える事を願います。

危害を与えないクマとは共生する事が可能な様に、再犯を防ぎ新たな被害者を生まない為に、地域で支え見守る事が地域の安全を守り安心に繋がると考えます。皆様と共に尽力して参ります。一段のご協力お願い致します。



部会だより

総務部

令和五年度事業から



部長 佐々木正人

令和五年五月より事務局長（総務部長）を拝命し皆様のご協力を頂きながら無我夢中で過ごした年でした。

今年、新型コロナウイルス感染症が確認されてから三年余り、こ



会報編集会議

の間は事業の中止や活動の制限がありました。新型コロナウイルス感染症も五月八日から感染症法の「五類感染症」に位置づけられた事により保護司会も徐々に通常の活動が出来るようになり、秋田保護観察所始め関係機関のご指導ご協力、そして会員皆様のご協力により計画された事業を滞りなく遂行することが出来ました。こと紙面をお借りして皆様にお礼申し上げます。

総務部から、主な事業報告と次年度のお知らせを致します。

◎更生保護サポートセンター

令和五年度は企画調整保護司六名の解除と七名の指名異動があり、十三名で延べ三三三日開所致しました。保護司会の事務初め、各種会議や「サポートだより」の発行、定期駐在や対象者の面接、更生保護女性会等との情報交換の場として活用されました。

◎会報・サポートだよりの発行

年一回発行の会報「鳥海山」は第十五号を、「サポートだより」は今年も三回発行し通算三十三号になりました。



タブレットを操作中

タブレット貸し出ししています。※問合せはサポートセンターまで

◎社会を明るくする運動

令和五年度に於いても秋田県、由利本荘・にかほ両市の推進会議への出席や、内閣総理大臣メッセーの伝達を両市長へは会長、副会長が、学校長へは各区の代表がそれぞれ伝達しました。

「公開ケース研究会」は本荘地区で開催、由利本荘市・にかほ市の両赤い羽根共同募金委員会からの助成を受け通常通りの開催が出来、大きな成果を上げることが出来ました。令和六年度は象潟区で開催される予定ですので、関係各位のご協力を宜しくお願い致します。

今後はICT化を進め各種会議の開催案内や諸連絡等会報のメール配信の活用を検討して参りたいと考えております。

研修部

研修部から



部長 齋藤光春

保護司の職を拝命して数年になりますが、二名の方と関わり、それぞれ保護観察期間を終え、新たな社会の一員として出発いたしました。これからの人生を明るく元氣にお過ごしになることを願っております。

保護司は、非常勤ではありませんが一般職の国家公務員とされており、私たちが職務として関わる対象者の方にとっては人生を左右される場合もありますので保護司として確かな知識と技術を身につけて職責を果たさなければと深く思うところです。

令和五年度の研修部会の主な活動としては、

◎五月十二日

第一期地域別定例研修

「被害者の思いに伝える保護観察処遇」

「『改定』交通安全学習ブックの活用」



自主研修（中央児童相談所）

◎九月十七日

第二期地域別定例研修

「保護司の安定的確保」

「刑法等の一部改正に伴う変更について」

◎九月十二日

自主研修

「犯罪者の心理について」

◎十一月十三日

自主研修

「秋田県こども・女性・障害者相談センター」への視察研修

◎十二月一日

第三期地域別定例研修

「良好処置と不良処置」

等を実施して、見識を深めて参りました。

私たち保護司の人間性や言葉が対象者に大きな影響を与える場合

があることを十分に自覚して職務遂行ができるように、実になる研修内容を検討して計画を立ててまいりますのでよろしくお願いいたします。



県央ブロック更生保護活動研究会

犯罪予防活動部

「いろは歌」と冤罪



部長 山田 真 竜

雪国秋田とは思えないような、記録的な暖かさだった今年の冬も終わり、四月を迎えようとしています。関東地方ではもうすぐ桜の便

りも聞こえてくること。春の待ち遠しい季節になりました。「色は匂へど散りぬるを云々」で始まる「いろは歌」は、花が散るのになぞらえて、「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為楽」という仏教の教えを、弘法大師空海が説かれたものとされています。しかし実はその中に、ある穏やかならぬ意味が隠されているという説、御存じでしょうか。

いろはにほへと
ちりぬるをわが
よたれそつねな
らんういのおく
やまけふこえて
あさきゆめみじ
ゑいもせず

本来五七調の歌ですが、七字目ずつで区切りを変えて、一番下の文字列を横に読んで行くと「とかなくてしす」、(咎無くて死す)という文が浮かび上がって来るのだそうです。いったい誰のことを指しているのか。柿本人麻呂説、赤穂浪士の浅野内匠頭説、果てはイエス・キリスト説まで諸説あって、調べて見ると中々に面白いものがあるようです。

冤罪による無念の死ということでは、先日かねて収監中だった口シアの反ブーチン派の政治活動家、ナワリヌイ氏の不審な死などもこの部類に入るのでしようし、日本

でも昨年、長年無実を訴え続けた袴田死刑囚の再審請求が確定して大変話題になりました。古今東西を問わず、冤罪に苦しむ人々は絶えません。神仏ならぬ身の、人が人を裁くことの難しさは重々承知の上とは言え、少なくとも「咎無くて死す」等という非道は、あつてはならないものと思います。

協力組織部

就労支援の困難さ



部長 前田 真 竜

保護観察対象者等が、善良な社会の一員として更生するためには、就職の機会を得て経済的に自立する事が、最も重要である事に鑑み、就労支援活動が組織として始まり、今年六月十九日で満十五年が経過します。この間最初から設立にも参画してきた私としては、ほとんどの成果もなく十五年間経過したこと、忸怩たる思いであります。これほど困難が続くとは思っても居ませんでした。設立十五年を節目に心機一転更なる努力を傾注

しなければとの思いであります。基盤となる協力雇用主の推移を見ても、秋田県全体における、過去五年間三百七十社程で、ほとんど増加していない現状であります。本荘地区においても三十六社と増加する気配もなく、組織拡大の困難さが、浮かび上がってきている状況にあります。まずは地区内において、就労支援に理解のある、協力雇用主の数を増やさねばなりません。そして雇用の実績に結びつける行動を起こすことが大事です。ご承知の通り、就労者に対する非就労者の再犯率は、倍以上と群を抜いています。此のことも如何に就労支援をして、労務に帰属させるかが喫緊の最も重要な課題であり、対策を打つ必要があると考えます。毎回本紙において、就労支援の難しさを表明しています。この問題は保護司会と、協力雇用主会のみで解決できる問題ではありません。行政も含め、全ての更生保護活動に携わる人々の、協力、援助、理解無くしては解決できないことを、皆さんとともに共有したいと考えます。人生において過ちを起してしまっただけを、一人でも多く社会復帰させて、普通の生活が出来るように、今後努力していきたいと考えます。

学校担当部

犯罪の低年齢化



部長 猪股 知幸

三月四日テレビのニュースに衝撃を受けた。

名古屋市の小学生が、同級生から百万円近くの詐欺に遭ったというニュースである。私なりに調べてみると概要は次のようである。

被害者の児童は、当時小学五年生。同級生三人からメダルを見せられ、「このメダルは純金製。いま金のレートは一グラム九千円くらい。価値は上がっていく一方」と言われたそう。そして、四十万円と提示されたメダルを三十六万円で購入。しかし、実際は純金のメダルではなく、名古屋港水族館で数百年で販売されている記念メダルだった。さらに、購入したのがカナダの十ドル札。二〇一七年にカナダの建国一五〇周年で発行された紙幣で、専門家によると、価値は、約千三百円。発行枚数が多く、特別珍しい紙幣ではないという。それを二十五万円で購入。他に、昭和六十一年まで発行されていた

伊藤博文の千円札を十萬円で購入した。全購入は計八回におよび、総額九十三万五千円。百万円弱になったという。何とも恐ろしい事件であり、小学五年生の同級生どうしの事件ということに、さらに衝撃を受けた。

この児童がどうなのかわからないが、現在の学校の教室は、健全な生徒のみならず、多少の障害を持つ児童も一緒にの教室で勉強する。いじめの構造で無いことを祈るのみである。この件で、学校が注意を怠ったとは思わないが、金額を考えれば、もう少し早期に、何らかのきっかけで、発見されたら良かったのにもと思いが痛む。

ドイツの哲学者であるイマヌエル・カント（一七二四〜一八〇四年）は、『教育学講義』の序論で、

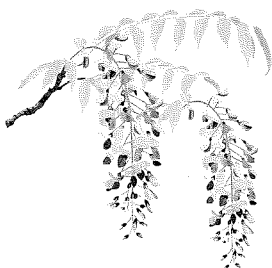


社明運動（参加呼びかけ）



社明運動（校長室にて）

「人間は教育されなければならぬ唯一の被造物である。そして、教育とは『養育（養護・保育）』と『訓練（訓育）』および『人間形成をともなつた知育』ということを意味している。」と述べている。極端に暴走してしまう子供たちを制御するひとつの道は、道徳心を育み、人間社会の常識を啓発していく事が、重要となるのではないか。



本荘地区保護司会を担当して



秋田保護観察所
保護観察官
佐藤 玲巳

平素から大変お世話になっております。秋田保護観察所の佐藤玲巳(さとう・れみ)と申します。紙面でのご挨拶となり恐れ入ります。

改めまして簡単な自己紹介ではございますが、出身は隣県の山形県遊佐町で、鳥海山と最上川、庄内平野に囲まれて高校時代までを過ごしました。大学時代は心理学を専攻して富山県で過ごし、就職を機に、東北に戻ってまいりました。令和二年四月に入庁後、東北地方更生保護委員会で三年間の事務官経験を経て、令和五年四月に秋田保護観察所にて保護観察官として補職し、初めての主任官業務として本荘地区を担当させていただいております。幼少期からお邪魔していた秋田の地での補職、さらに、歴代の先輩観察官が担当されてきた本荘地区を、恐れ多くも初年度に担当させていただいたことを、勝手ながら大変嬉しく思っております。



研修会講師 佐藤観察官

まったり、怒涛の新人研修で不在が多く、不在時に限って事件が思いもよらない展開を遂げていたり、その他数々、先生方のお手を煩わせてしまった記憶ばかりで大変恐縮しております。そのような中でも、定例研修時や定期駐在時には温かく迎え入れて頂いたことは大変嬉しく、年度末が近づくにつれて、慌ただしくも充実し、多くの学びを得られた貴重な一年であったと感じております。本当にありがとうございました。

令和六年度においても、引き続き担当させていただきます。六月十九日、十月十六日、一月二十二日に、定期駐在の予定がありますので、ぜひ事件に限らず先生方とお話できることを楽しみに伺わせてください。また、まだ至らぬ点ばかりで、ご迷惑をおかけし恐れ入りますが、一日でも早く一人前の保護観察官として職務にあたるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ICT関連の研修会に参加して



西目区
近藤 俊彦

令和五年六月二十八日、サポートセンターにて県内各地区保護司会をオンラインで繋いでICT研修会が開催されました。私は「ICT」という言葉の意味もよく理解しないままの参加でありましたが、佐藤道幸会長が手慣れた様子でプロジェクトやスピーカーをセツトする姿に尊敬の念を抱きつつ準備を手伝い、一つの画面上で各地区保護司会の方々とICT導入の進捗状況や今後の活用方法について等を協議しました。研修会自体は、各地区の通信環境もよく整備されており良好で、議事も円滑に進み有意義なものであったと思います。

ところで、ICTとはあまり聞きなれない言葉ですが、調べてみると「Information and Communication Technology」(情報通信技術)の略とのこと。IT(Information Technology)とはほぼ同義の意味を持つが、コンピューター関連の技術をIT、コンピューター技術の活用に着目する場合をICTと、区別して用いる場合もあるそうです。国際的にICTが定着していることなどから、日本でも近年ICTがITに代わる言葉として広

まりつつあるようです。

最近ではコロナ禍もひと段落の状況ですが、振り返るとこの過去四年間は私もICTツールの一つ「Zoom」を使用したビデオ通話に大変助けられました。ちょうど東北六県の若手僧侶を繋ぐ青年会活動の役職任期中でもあったので、会議の為遠路仙台や盛岡まで出向かずとも自宅に居ながらにして議事を進められるのは非常に便利なものでした。しかし一方で、やはり直接テーブルを囲んで相手と話をしないと言葉の温度感はずっと伝わらぬものであると感じたのも事実でしたが。

私は現在四十代半ばで、それにデジタルツールやソフトを使いこなしているつもりですが、ことフェイスブックやインスタグラム等のSNSに関しては中々興味・関心が低く使用するまでには至っていませんでした。しかし、研修会で私より上の世代の保護司の方々が積極的にSNSで情報発信を行っているのを見聞きして現在考えを改めているところです。企画調整保護司の諸連絡もライングループ内で情報を瞬時に共有でき利便性を日々実感しています。AIテク

退任・新任保護司のメッセージ

めぐり合いに感謝



【退任】
象瀧区
阿部 洋子

桜の開花情報がチラホラ聞こえる季節となりました。保護司を退任してからもう直ぐ一年、月日の流れの速さを感じています。

平成十九年七月一日に保護司拝命を受け、令和五年六月三十日退任までの十六年間、無事任務を終えることが出来ましたのは、諸先輩のご指導とご支援の賜と深く感謝申し上げます。

十六年を振り返って、印象深く残っているのは、最初に担当した十代の少年のことです。その少年が保護期間を満了した後結婚をし、子供の父親として社会人として成長している姿に感動したこと。

また、研修部員として種々のテーマに取り組みながら私自身も成長できました。こと等です。

保護司期間の十六年間は、人生の彩として、私の胸の中でいきいきと鮮やかに息づいています。

これからの残り少ない人生においても保護司時代に学んだ理念(罪を犯した人に、支援の手を差し延べる)ということをお忘れずに生活して行きたいと考えています。

最後に、本荘地区保護司会の益々のご発展を祈念して退任の挨拶いたします。

穏やかで健康な日々



【退任】
金浦区
柴田 鐵四郎

この度、定年を迎え保護司の任を退任しました。

この間、関係機関の皆様はじめ、諸先輩、同僚の皆様には一方ならぬご指導を賜りましたことに衷心より厚くお礼申し上げます。

顧みれば、十三年間という在任中の出来事が昨日のように脳裏を去来します。

保護司の拝命を受け、最初の仕事であった初任者研修での思い出ですが、会場の机におかれた分厚い関係書籍の多さに驚きと恐怖のような感慨に襲われ、これは大変な世界に飛び込んでしまったものだ。と、悔恨の念に駆られたスタートでした。

その初任者研修受講の直後、研修の整理もつかぬ間に、保護観察所からの連絡で、対象者を引き受けてほしいとの事でした。

保護司の仕事が何たるかも理解していなかった私はいきなり、五里霧中の闇の中に迷い込んだ思いで、担

当観察官にまだ保護司の仕事の内容を把握しきっていないので今回は何方針にお願ひできないものでしょうか。と、哀願したところ、にべもなく「皆さんそのような状態でも、自主研修を積んでやっていますよ」との回答でした。そんな未熟なスタートでしたが、何とか定年まで勤めあげることができ、十二年間の保護司の任を解かせていただきました。

退任にあたって



【退任】
岩城区
松山 祖隆

十六年の間、多くの先輩、同僚の先生方や観察所の皆様のご指導を頂きました事にお礼申し上げます。この間、多くの皆様から新しい事を学び、そして楽しい時間を過ごすことが出来ました。心からお礼申し上げます。

心苦しく思っている一つは、事務局補助員に任命されたにも拘わらず、同時期発見された病の治療に専念したいとの我が儘な申し出に、時の会長、役員の皆様のご理解で、何一つ仕事をすることなく退任してしま

ました。大変ご迷惑をお掛けした事、今でも心苦しく改めてお詫びいたします。

昨今、どの組織に於いても担い手が不足していると報道されています。保護司として例外ではないと思います。自分は後任を推薦するのも役割の一つと考え、四人の立派な方々を推し、皆さんそれぞれの立場で活躍されておりますこと嬉しく思っております。

会の発展と先生方のご活躍、ご健康を祈念し、退任のごあいさついたします。

新任保護司として



【新任】
矢鳥区
真坂 伸子

令和五年七月一日付で保護司を拝命いたしました。現在、保育園に勤務しながら「何か地域社会の役にたてることはないだろうか」と思っておりましたところ、公私共にお世話になった方からお声をかけていただき、お引き受けしました。

新任研修を受講し、これから保護司としての活動が始まりますが、身の引き締まる思いです。立ち直ろうとする人を受け入れ支える方法は一人一人異なり、一人の人間の人生に関わっていく責任は大変重いものですが、育ちの根っこに携わる仕事をしてきた自分だからこそその視点で様々な人生を経てきた人達と向き合っ

いきたいと思えます。

コロナ禍を経て、少子高齢化、環境は激化している今、人と人との繋がりが何よりも大切なのではないのでしょうか。一つ一つのことには誠実に対応し、その人の人生がより良いものとなるよう、学びながら、微力を尽くして参りたいと思えます。

保護司会の諸先輩方のご指導を宜しくお願いいたします。

寄り添う気持ちで



【新任】
岩城区
堀井新太郎

令和五年七月一日付で保護司を拝命いたしました堀井と申します。

保護司のお話をいただき、改めて、その活動の内容を確認いたしますと、私のような五十歳を迎えるばかりの若輩者が勤まるものだろうか当初戸惑いを覚えたものの、これも「天命」と思い、お引受けさせていただきました。現在は、情報化の波に押され、管理された社会が形成された分、抑圧された日常の中で、考えられないような事件が発生しております。

今度、私が担当する事になる対象者には、常に寄り添う姿勢を忘れず、また、上からの目線に決してならぬよう接してゆこうと思えます。その為には、「自己研鑽」。多くの学びを得るため、純情かつ素直な心構え、態度で望みたいと思えます。

で、保護司会の諸先輩方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

保護司を拝命するまで



【新任】
象潟区
五十嵐知子

令和五年七月一日付で保護司を拝命した五十嵐知子と申します。

今まで、保護司という名称は聞いたことがありましたが、実際にどのような活動をしているのかは、ほんやりとしか知りませんでした。そのため、「保護司をやってみませんか」とのお話をいただいた時には驚きました。私にできるのだろうかと思いつつも「このようなお話を頂いたのも縁だから」と、感じていたことを覚えていきます。

初めて家族に話をした時には、心配と反対をされました。どうしようかと友人に相談したところ「罪を犯してしまった方が、同じことを繰り返さないようにするのは大変なことだよ。これからもっと更生保護は大事になってくるから。話を聞くところから始めてみれば。」との応援を受けました。今は家族も理解してくれています。

まずは一歩ずつ学んでいきたいと思っております。保護司会の諸先輩の皆様、ご指導の程よろしくお願い致します。

社会を明るくする運動 公開ケース研究会 in 本荘



本荘区
岩崎 通子

社会を明るくする運動強調月間の一環事業として、第七十三回研究会 in 本荘が令和五年七月二十六日市民交流学習センターに於いて開催されました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったとはいえ、危険性がなくなったわけではないので感染対策をとりながらの開催となりました。

本荘区会では研究会の趣旨に合うようなDVDを上映することにし「フクロウ人形の秘密」が候補に挙げられ決定しました。この映画は、法務省が首唱する「社会を明るくする運動」作文コンテストで法務大臣受賞作品を再犯防止啓発ドラマとして映画化したものです。

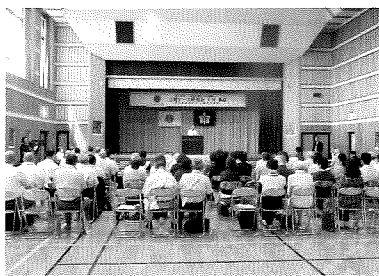
映画の主人公ユキは、母と訪れた刑務所の展示即売所で木彫りのフクロウ人形との出会いをきっかけに罪を犯す少年少女が、もともと凶暴な性格でないことを知り、小学生の自分達にも何かできることがあるはずと考え始めていくという内容でした。映画を見終えた参加者からは「とても感動しました。」等の言葉をいただきました。

次に「由利本荘市再犯防止推進計画について」をテーマとし、講師

に由利本荘市市民生活部市民課長の渡部淳一氏にご講演をしていただきました。この計画は、犯罪や非行をした者等が円滑な社会復帰を果たすために必要な行政サービス等を整理・提供すること。また、由利本荘市の様々な施策に再犯防止の視点を反映させること。そして、再犯防止をすることにも、市民が安全で安心して暮らせる社会の実現を目指すことを目的に立てられました。社会生活をする上で、様々な支援を必要とする人に必要な行政サービス等が提供できるように現在取り組んでいる支援についての説明がありました。

私たち保護司会も関係機関の一つとして行政と連携を図りながら、再犯防止の啓発活動への取り組みを進めていかなければならないと強く思った講演でした。

最後になりましたが会場入り口に「秋田県大雨災害支援募金箱」を設置し、沢山の方々より募金していただきました。さきかげ新報社を通じて被災地へお届けしてもらいました。心より感謝申し上げます。



法務大臣表彰を受賞して

法務大臣表彰受賞にあたり



大内区 小池 典弥

二十年前前に遡りますが、お世話になってきた方より保護司になってくれとの話があり、私はお会いする度聞き流しておりましたが、如何いう訳か今日まで其の任に居ることになった次第です。初任者研修を終え一月位過ぎた頃でしょうか、更生保護の現場に携わることとなり、保護観察官のご指導の下、地域の諸先輩の方々の温かいご助言を頂き何とか務めてこられたものと感謝申し上げます。普段の生活では関わる事の無かった対象者との面接や其の家族との話等思い起こせばほとんどの家庭は普通の家族であったと記憶しています。何故こうなったのか人に伝えること、伝わることの難しさを身に沁みて感じておりました。此の二年余りコロナ禍の中で、私もコロナに罹り体調を崩し研修会等欠席ばかりしており事務局の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。此度の表彰も関係者各位のお蔭と心より感謝申し上げます。

支えられての大臣表彰を受賞



本荘区 岩崎 通子

女性保護司の必要性を説く大先輩保護司より推薦を受けて、恐る恐る保護司になったのは、今から二十年前です。

新任の私に担当依頼は直ぐにはこないだろうと高を括っていました。予想に反し、依頼があり、その後も切れ目なく対象者と向き合う機会をいただきました。分からない事だらけでしたが、職場にも近隣にもベテラン保護司が多くなりましたので、いつでもアドバイスをいただける環境にあり、悩んでもひとりで抱え込まずに済みました。保護司としての年数は経ったものの観察中に再犯を繰り返されたり、欺かれたり等で失敗の多い私ですが、時々声をかけてくれる元対象者の笑顔をご褒美にこれからは保護司活動を続けていこうと思っています。先輩保護司が良く口にしていた「騙されて また騙される保護司かな」を時々思い出しながら。

法務大臣表彰を受賞して



仁賀保区 菅原 旦峰

今般、更生保護活動に係る法務大臣表彰を受賞するに際し、まず第一に思った事は、これは私個人が受けてはイケナイ事ではないかと云う事でした。と云うのも私以外の保護司の皆様方のご苦勞ご活躍そのものに対して与えられるべきものだと思いが強かったからです。更に云えば私個人は何を以って受賞に値するのだろうか？と云う疑義が根底に有ったからです。

しかし、しかし、辞退すれば、諸先輩、現役の保護司の皆様方の活躍そのものに対して背を向ける事になりはしないか？との感覚が働いた為にお受けする事に致しました。又、一方で保護司の皆様、観察官先生方の温かいご指導とご鞭撻の賜物として受賞したんだとの感謝の念を深くして居ります。



第57回 秋田県更生保護大会
令和6年11月8日(金)
あきた芸術劇場ミルハス(中ホール)にて開催されます

令和6年度 社会を明るくする運動
7月は社会を明るくする運動の強調月間です。この運動のメインである第74回「公開ケース研究会」が象潟区で開催されます。みな様方ご協力をお願いいたします。

編集後記
令和6年は、穏やかな、明るい年になるようにお祈りしたばかりなのに、元日の午後4時10分頃、石川県能登半島を中心に大地震が発生し、甚大な被害を受けました。この地震で、尊い命・生活拠点を失われた方の心境を思うと胸が痛みます。心より、お見舞い申し上げます。早く、災害復旧され元の生活にもどれることを、願うばかりです。
ここ数年は、世界を揺るがしたコロナウイルスに始まり、ロシアとウクライナの戦争の勃発など暗いことばかりでしたが、これからは、明るい未来に出会いたいものです。
◆編集スタッフ◆ 村山正顕(鳥海) 佐藤道幸(本荘) 小松義嗣(東由利) 佐藤順一(東由利) 湯保卓雄(西目) 長谷山良(象潟) 岩崎通子(本荘)